



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1719号

事務所 静岡県三島市大社町17-4
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市本町14-31 みしまプラザホテル
TEL(055)972-2122
会長 亥角 裕巳 幹事 井上 幸子



広重版画より 三島 朝霧

第1781回例会

2009.2.19 曇

司会

森崎祐治君

ロータリーソング

「それでこそロータリー」
指揮 佐々木雅浩君

会長挨拶

副会長 岩崎守幸君

挨拶ということについてお話しします。

私は挨拶の本質は『対象との同化』と考えます。自分を生かしてくれている全ての対象とひとつになる行動こそ「挨拶」なのです。言うまでもなく私たちは一人で生きているわけではなく、両親が産み、育てていただき、兄弟、友人はじめ恩師、上司、同僚など、さまざまな人達のお陰で成長してきました。そして現在になり又、お世話になったのはこうした人達だけではないのです。食物や衣類や住まい、機械、道具などモノのお陰で豊かな生活が出来るのです。植物や動物は私たちの生活に潤いを与えてくれるし、火や水や空気など自然環境がなければ私達は一瞬たりとも生きてゆけない。対象と一つになるから創造があるのです。自然の恩恵に感謝し、道具や機械を大切に使い、すべての人に対して感謝の気持ちを忘れることなく、言葉を換えると、自分を取り巻く全ての対象に感謝して一つになる行動が挨拶であり、こうした生活を続けていくことにより人に幸せがきて、その人が幸せになるだけでなく家族が幸せになり、企業は繁栄し住み良い社会が生まれる、反対に自然を荒らし、モノを粗末に扱い、周囲の人と争ってばかりいれば、その人は不幸になり家庭も企業も社会も崩壊に向かう道理であり、したがって『挨拶は創造の源泉』であります。

“こんにちは、ようこそ”

ビジター 渡辺妙子君(三島RC)
-以上1名

出席報告

	出席総数	出席率	メンバー	修正出席率
前々回	44/51	86.27%	49/51	96.08%
今回	43/51	84.31%	会員総数	53名

欠席者 黒田君、諏訪部(敏)君、瀬川君、花房君、古川君、前田(房)君、柳田君(石井(良)君)

幹事報告

幹事 井上幸子君

- 今日の卓話 原久一会員
「ブラジルのユーカリ植林と日本」
緑の砂漠か緑の再生か～良識ある考えが必要とされます。
- 先週は(財)浜松国際交流協会よりの「がんばれブラジル人会議」への支援協力ありがとうございました。今週集計し贈呈いたします。
- 来週26日(木)は兼子ガバナー補佐公式訪問です。多くの出席をお願いします。卓話者は西本和夫会員です。

2008～2009年度
国際ロータリー会長
李 東建(D.K.Lee)

夢をかたちに



スマイルボックス

- ◆ 西本君、住所が変わりました。米山記念館の近くの会社の三階に移りました。沼津市から郡に移ってちょっと寂しい気がします。
住所 駿東郡長泉町上土狩274-2
電話 055-987-7760
FAX 055-987-9761
会社と全て同じです。よろしくお願ひいたします。
- ◆ 伊丹君、昨日地元の新聞に大きく掲載されました。多くの友人からはげましの言葉、本当に有難うございました。これからもターボ全開で頑張ります。宜しくご指導ください。
- ◆ 千葉君、小野さん、昨日は大変お世話になり、ごちそうになり、ありがとうございました。富士山は寒かったです。伊丹さん、静岡新聞、色男に写ってましたね!
- ◆ 原君、本日卓話です。「緑の砂漠か、緑の再生か、ブラジルのユーカリ植林と日本」活動映画をご覧になってください。
- ◆ 渡辺君、街の真ん中ですし屋の改装をしています。今時大丈夫?と心配する仲間が多い様ですが、とりあえず地域二番を目指します。
- ◆ 鈴木(雅)君、22日(日)、三島西ロータリーを代表し、伊豆マラソンに参加します。お出かけの予定がある方は、交通規制にご留意下さい。佐々木さん、本有難うございました。出来ることから始めようと思います。
- ◆ 佐々木君、なんとなく。
- ◆ 松坂君、バッジを忘れました。ごめんなさい。

卓話

緑の砂漠か緑の再生か ブラジルのユーカリ植林と日本

原 久一君

近年ブラジルは、世界最大のユーカリ植林国となった。成長の早いユーカリは、大量に紙を消費する日本などの先進国のパルプの原料とされている。内陸部のミナスジェライス州にあるセニブラ社は日本の大手製紙会社が合同で出資したブラジルとの合弁会社で、最大のパルプの輸出先は日本であります。

セニブラジルのユーカリは7年間で30メートルにも成長し、林業より農業的な感覚に近い生産サイクルでもあります。セニブラのスタッフは、ユーカリ植林により荒地を緑化して雇用面においても地域に貢献していると語り、先進国は今まで以上に紙製品を消費することを奨励している。

一方、地元の市民団体や生態学者は、ユーカリの大量植林は、在来の動植物を脅かすばかりか水資源を枯らしてしまう緑の砂漠だと警告をし、実例を紹介しております。今でも現地でのユーカリ植林の推進派、反対派の両派を紹介しております。

ユーカリの栽培好適地は降雨量が多いところで、成長が早いゆえに樹木の成分の殆どが水分であるユーカリを植林したために直径500メートル、深さ4メートルの湖が枯渇した例もあり、涵養地が枯渇することによって生活の糧とされている農業が全く出来ない状況です。その影響によって学校に通えない子供や、ストリートチルドレンになって物乞いをする子供が増加しております。

日本では、昔から「紙は魂が宿る」と言われ紙を何度も利用してきました。今では日本の紙の消費は、世界標準の6倍、年間一人当たり240kg消費されており、ゴミを分別すると燃えるゴミの45%に値するとのことでした。

岡村 淳(おかむら じゅん)プロフィール

1958年11月7日生まれ。東京都目黒区出身。

1982年、早稲田大学第一文学部日本史学専攻卒業。考古学・民俗学・人類学などから、現代日本文化に潜む縄文文化の痕跡を研究。

同年、日本映像記録センター入社。「すばらしい世界旅行」「知られざる世界」の番組ディレクターを担当し、ブラジルを始めとする中南米を主に取材。

1987年、フリーランスとなりブラジルに移住。ブラジルの日本人移民、そして社会・環境問題をテーマとした作品の製作を継続中。

(週報担当:日高 克)

ROTARY WORLD

引用に値する言葉

「『ポリオのない世界』というロータリーのビジョンと、この挑戦におけるロータリーのリーダーシップがなければ、ポリオ撲滅推進活動は決して実現しなかったでしょう」

米国疾病対策センター局長
ジュリー L. ガーバーディング博士
2008年RIロサンゼルス国際大会にて